

学校教育 市内小中学校の取り組み② ことばを育む「言語力 育成研究校」の取り組み

広報おおたわら2月1日号でお知らせしましたとおり、市の各小中学校の全国学力・学習状況調査の結果から、今後、国語のB問題（活用する力を問う問題）の正答率を向上させていくことが課題の一つとして考えられます。このことは、新しい学習指導要領でも強調されている「言語力の育成」や「言語活動の充実」につながる課題です。

市内各小中学校でも、こうした課題を意識したさまざま取り組みがされていますが、市の教育委員会でも今年度「言語力育成」の研究学校を指定して研究してまいりました。

今回は、「言語力育成」研究学校の金丸小学校の取り組みを紹介いたします。



金丸小学校が目指す言語力育成

金丸小学校では研究主題を「言語力育成を目指して〜豊かに関わり合う力を伸ばす指導の工夫〜」とし、以下のような目指す子ども像を設定して、大きく三つの内容について研究しました。

●目指す子ども像（◎は重点項目）

- ◎ 豊かな語彙（ごい）力を持ち、自分の思いや考えを適切に表現することができる子
- ◎ 相手の話を聞き、その思いや考えを聞き取ることができるとる子
- 相手の考えを理解し、自分の言葉に置き換えてコミュニケーションし合える子

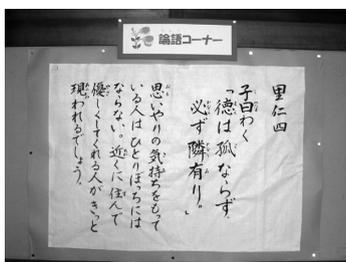
●研究内容

- 1 日々の授業について
- 2 日常指導について
- 3 校内の言語環境について

ことばに興味をもたせる言語環境

金丸小学校の校舎内には、児童の言葉に対する興味・関心を高めるためのさまざまなコーナーが設けられています。それぞれの先生が担当のコーナーをもち、毎月、新しいことばに出会うチャンスを作っています。

校長先生自らが直筆で書いた「論語コーナー」（写真①）やク



写真① 論語コーナー

イズ形式で楽しく掲示した「漢字コーナー」（写真②）など、工夫されたコーナーが5カ所設けられています。



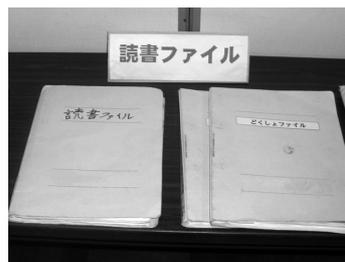
写真② 漢字コーナー

ことばを豊かにする日常の取り組み

金丸小学校では、日ごろからことばを豊かにするためのさまざまな取り組みがされています。特に以下のような五つの点について工夫改善しています。

- 1 読書指導の充実（読み聞かせ、読書集会、読書タイムなど）
- 2 音読指導の充実（音読集・音読カードの活用、音読集会の開催）
- 3 書くことへの指導の工夫（日記指導、学級新聞、案内状、お礼状などの工夫）
- 4 国語辞典の活用（3年生以上は各学級の授業で活用）
- 5 日常の話し方・聞き方指導（話し方・聞き方マニュアル）（写真④）

読書指導では6年間の読書を記録するために読書ファイル（写真③）を活用しています。1年生から記録をファイリングすることにより、どんな本を読み、そのとき、どんなことを感じたかを振り返ることができ



写真③ 読書ファイル

「日常の話し方・聞き方マニュアル」（写真④）は低学年用、中学年用、高学年用があり、低学年は具体的にどう話すが示されており、高学年になるにつれ、自分のことばで話せるような工夫が見られます。



写真④ 日常の話し方・聞き方マニュアル（教室の壁に掲示）

意欲的で豊かなことばのやりとり がある国語の授業

～大田原市教育会小学校国語
部会授業研究会の様子～

2月9日、市教育会小学校国語部会の授業研究会として、金丸小学校2年生の授業が公開されました。

「音やようすをあらわすことば」という題材で、「笑う様子を表す言葉のまとまりがあることに気付き、その言葉が表す様子を考えることができる」という目標で授業が行われました。

全員の児童が担任の先生の発問に対し、挙手して発表していました。その意欲に参観していた他校の先生方も驚いていました。

さらに、多くの先生が感心していたのは、子どもたちの発言の内容です。「○○さんとは違って、○○だと思えます」「○○さんに付け足しで、○○なときもあると思えます」「○○さんの○○の意見は○○なところがいいと思います」と、先生の話や質問を聞きながら、クラスの友達の意見を聞いて、それに対して自分の意見を分かりやすく発言しているのです。

担任の先生は、「これまでまったく同じ意見が出たときには、『それは同じ意見が出ていたね。誰の意見だったか分かるかな。』というように、ただ自分の意見を言うのではない、友達の意見を聞いて自分の考え

と比較して考えるように働きかけてきたんです。」と説明していました。



グループで話し合う児童

グループの意見を発表する児童



学校応援チームの支援

今回の金丸小学校の「言語力育成」研究学校には、栃木県教育委員会学校応援チームの支援をお願いしました。1年間で4名の指導者の方に年間6回訪問をしていただきました。

言語力を育成することについての意義や方法についての講話や授業の指導案作りなど、さまざまな形で学校の要望に合わせて支援していただきました。

2月9日の訪問が最後の訪問になりましたが、「日ごろの指導と今日の授業内容の両方の素晴らしさが感

じられる授業でした。どこに出しても見本となるような中身のある授業でした。」と指導者の方もおっしゃっていました。

市内全体への広がり期待

2月9日は市内小学校から37名の先生方が参加していました。授業をもとに、どうしたらこのような豊かなことばの力を育てられるのかと熱心に話し合いをされていました。最後に県教育委員会の指導者から指導助言をいただきましたが、先生方は必死にメモをとり(写真⑦)、会終了後も質問が続いていました。

今後、参加された先生方が自らの学校での指導に生かされることが期待されます。



写真⑦

問い合わせ

学校教育課学校教育係
TEL (98) 71113

第13回60与一のつどい

＝2月19日＝

2月19日(土)、大田原市総合文化会館ホールで「第13回60与一のつどい」を開催しました。今回は、「60からのよいことはじめ」をテーマとして、講演や事例発表がありました。

第1部は、国際医療福祉大学教授小林雅彦氏による講演。「60からのよいことはじめ」をテーマに、無理せず、自分の時間をおすそ分けする気持ちで活動を始めるとの大切さを、ユーモアをまじえながら、お話しいただきました。来場者は、小林先生のお話熱心に聴き入っていました。



国際医療福祉大学教授
小林雅彦氏による講演

第2部は、地元で活躍する方からの事例発表。黒羽ふれあい学級学級長の黒澤千恵子さんからは、ふれあい学級の活動を通して感じた人と人とのつながりの大切さ、また、親園高齢者ほほえみセンターサポーターの植木重治さんからは、ご自身の活動体験を基に、第二の人生を前向きに生かすことの大切さが発表されました。

問い合わせ

生涯学習課生涯学習係
TEL (98) 71115